

地域社会は、川とどのように関わっているのだろう？	2
森と水の国「日本」	6
日本の水は、地域でこんなふうに利用されている！	
地域社会とのかかわり①	8
農業用水・工業用水・生活用水	
地域社会とのかかわり②-①	10
川から生まれた地域の産業—農業	
地域社会とのかかわり②-②	14
川から生まれた地域の産業—工業	
地域社会とのかかわり②-③	16
川から生まれた地域の産業—観光業	
地域社会とのかかわり②-④	20
川から生まれた地域の産業—漁業	
地域社会とのかかわり②-⑤	22
川から生まれた地域の産業—公共施設	
地域社会とのかかわり③	24
川と暮らし	
地域社会とのかかわり④	26
ダム施設の役割	

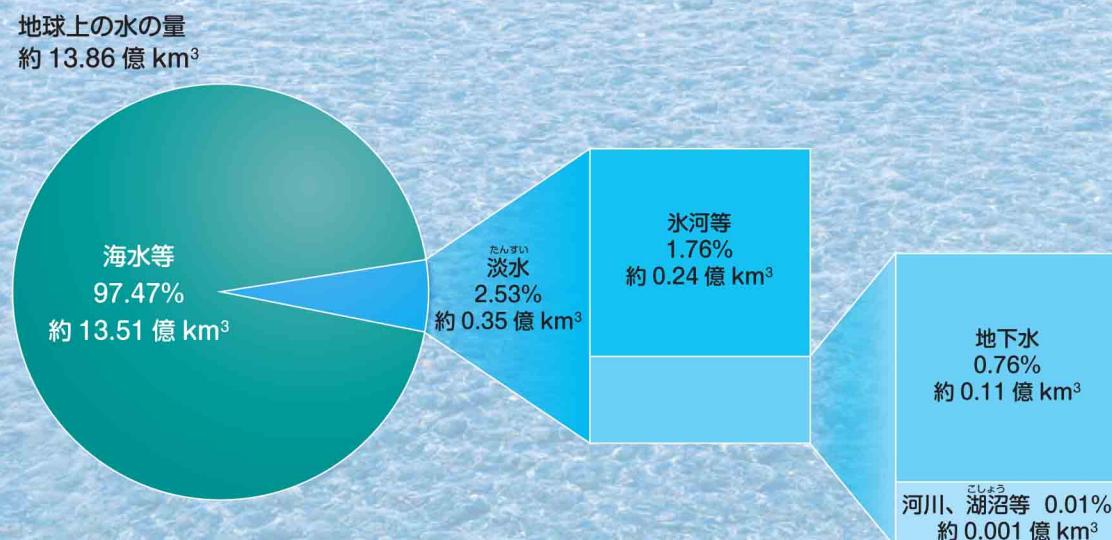
地域社会とのかかわり⑤	28
水源地域対策	
地域社会とのかかわり⑥	30
水源地域ビジョン	
「川と地域社会のかかわり」を未来へつなぐ SDGs	32
持続可能な社会と河川への取り組みがはじまる！	
「川と地域社会のかかわり」を未来へつなぐ SDGs	34
海洋汚染の問題は、川とつながっている！	
「川と地域社会のかかわり」を未来へつなぐ SDGs	36
SDGsの達成へ向けた地域社会の取り組み	
調べてみよう！川が育む生態系	38
川の多様な水棲生物たち	
調べてみよう！川が育む生態系	40
川辺で見かける野鳥たち	
調べてみよう！川が育む生態系	42
川辺を彩る植物たち	
川のこと、もっと知りたい！	44

森と水の国「日本」

日本の水は、地域でこんなふうに利用されている！

■地球上には、どれくらいの水があるのだろう？

地球上には、およそ14億立方キロメートルの水があるとされ、そのうちの約97.5パーセントが海水で、残りの約2.5パーセントが淡水です。淡水の大部分は南・北極地域などの氷や氷河として存在し、地下水や河川、湖沼の水として存在する淡水の量は、地球上の水の約0.8パーセント。しかも、そのほとんどが地下水で、河川や湖沼などの淡水の量は、地球上の水の量のわずか0.01パーセントだと言われています。



▲地球上の水の量

出典：国土交通省ウェブサイト (<https://www.mlit.go.jp/common/001371908.pdf>) をもとに加工して作成

(注) 1. World Water Resources at the Beginning of 21st Century; I.A. Shiklomanov and John C. Rodda, 2003 をもとに国土交通省水資源部作成。
2. 南極大陸の地下水は含まれていない。

* グラフの图形比率はクローズアップして表現されており、数値と異なります。

●日本の水資源は、どうなっているのだろう？

日本の年間降水量を体積に換算すると、1986年（昭和61年）から2015年（平成27年）までの30年間の平均値は、約6,500億立方メートルでした。その内、約2,300億立方メートル（約35パーセント）は蒸発し、残りの約4,200億立方メートルが人々の利用可能な水の量だと言われます。降水量が少ない渇水年には、この量が大幅に減少します。

●実際に使用される水の量は、約19パーセント！

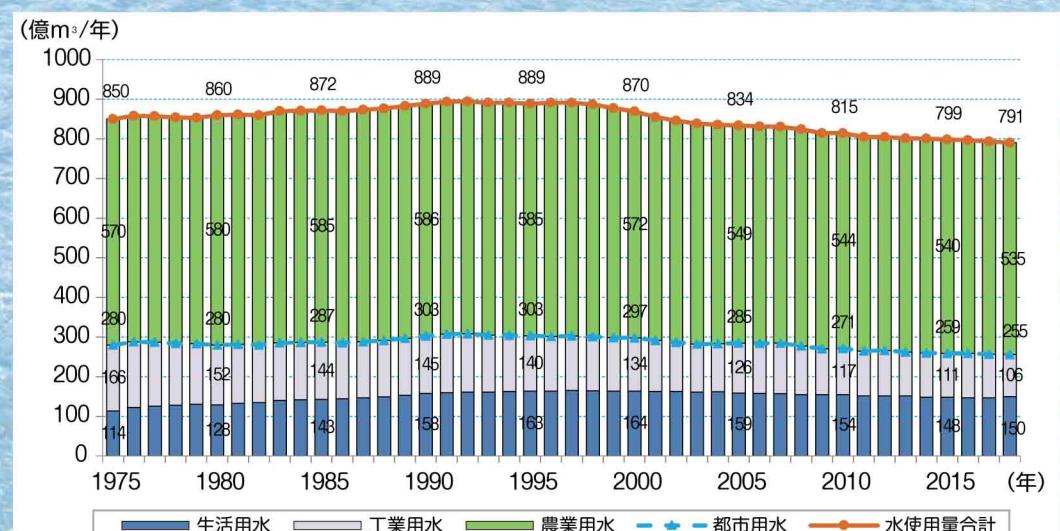
利用可能な水のうち、3,000億立方メートル以上の水が洪水などで海へ流出したり、地下水として貯えられ、実際に使用できる水の量は19パーセントほどだとされます。この使用可能な水の約89パーセントは河川や湖沼から取水され、約11パーセントが地下水から取水されています。

●水の用途別の使用量。

2018年（平成30年）の全国の水使用量（取水量ベース）は、合計約791億立方メートル／年で、用途別では、生活用水と工業用水を合わせた都市用水が約255億立方メートル／年、農業用水が約535億立方メートル／年でした。

●水の使用量は、ゆるやかな減少傾向にある！

地球温暖化などの影響もあってか、生活用水量と農業用水量が増加の傾向にありましたが、1998年（平成10年）頃をピークに、横ばいからゆるやかな減少傾向にあります。ことに農業用水量は大きく減少しており、近年の社会・経済状況などを反映したものと考えられています。工業用水は、再利用などにより1973年（昭和48年）をピークに減少しています。



▲全国の水使用量（1975年～2018年）

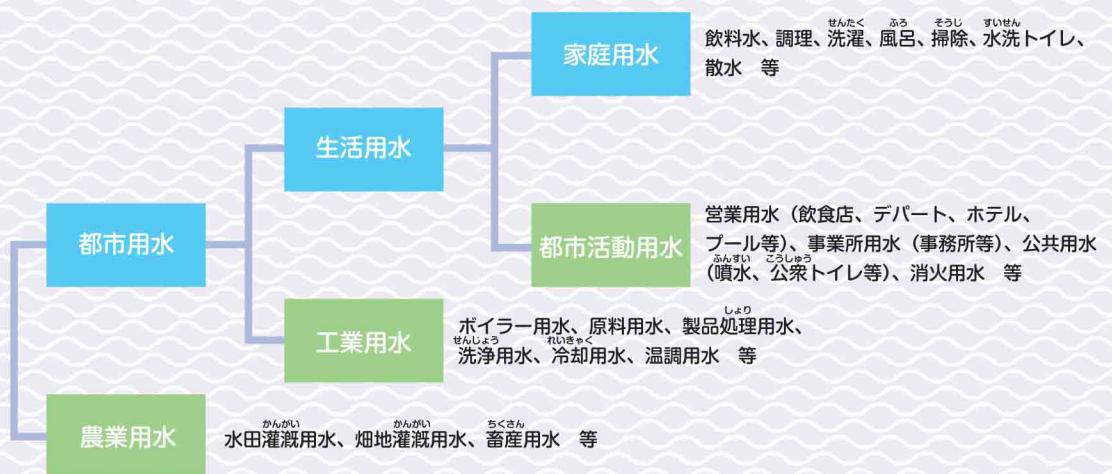
出典：国土交通省ウェブサイト (<https://www.mlit.go.jp/common/001371909.pdf>) をもとに加工して作成

(注) 1. 国土交通省水資源部作成。
2. 国土交通省水資源部の推計による取水量ベースの値であり、使用後再び河川等へ還元される水量も含む。
3. 工業用水は従業員4人以上の事業所を対象とし、淡水補給量である。ただし、公益事業において使用された水は含まない。
4. 農業用水については、1981～1982年値は1980年の値を、1984～1988年値は1983年の値を、1990～1993年値は1989年の値を用いている。
5. 四捨五入の関係で合計が合わないことがある。

農業用水・工業用水・ 生活用水

■水資源の利用状況を詳しく見てみよう！

2018年(平成30年)の取水量ベース(河川水、地下水などの水源から取水された段階の水量)の全国の水使用量は、「生活用水」に約150億立方メートル、「工業用水」に約106億立方メートルで、生活用水と工業用水を合わせた「都市用水」は、約256億立方メートルになります。「農業用水」には、約535億立方メートルが使用され、生活用水、工業用水、農業用水の合計量は約793億立方メートルにもなり、これは琵琶湖約3杯分の水量に相当します。

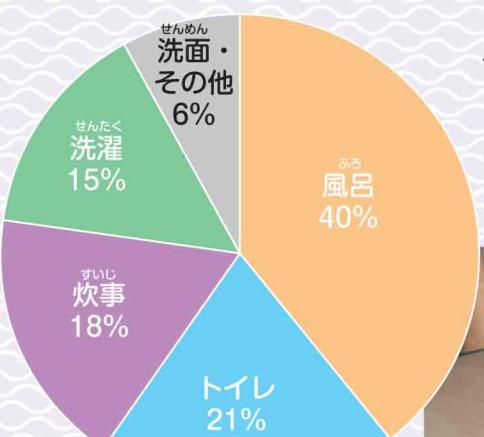


出典：国土交通省ウェブサイト (<https://www.mlit.go.jp/common/001319366.pdf#:~:text=>) をもとに加工して作成

●「農業用水」は、水田灌漑用水(水稻などの生育に必要な水)、畠地灌漑用水(野菜や果樹等の生育などに必要な水)、畜産用水(牛、豚、鶏などの家畜飼養に必要な水)を合わせたもので、大半は水田灌漑用水が占めています。このほかにも農機具や作物などの洗浄、防火、親水空間や景観の形成、水路に流入する生活雑排水の希釈など、暮らしに密着した“地域の水”としても広く活用されています。

●「工業用水」とは、工業の分野で、ボイラー用水、原料用水、製品処理用水、洗浄用水、冷却用水、温調(温度調節)用水などに使用されている水で、一度使用した水を回収して再利用している水量も含まれます。近年、工業用水の使用量は、再利用により、新たに河川などから取水する量が減少傾向にあります。

●「生活用水」は、調理、洗濯、風呂、掃除、水洗トイレなどの家庭で使用される家庭用水と、オフィス、飲食店、ホテルなどで使用される都市活動用水を合わせたものを言います。家庭用水の使われ方については、お風呂が約40パーセント、トイレが約21パーセント、炊事が約18パーセント、洗濯が約15パーセントとなっています。



▲目的別家庭用水使用量の割合
出典：国土交通省ウェブサイト
(https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei Tk2_000014.html) をもとに加工して作成
(東京都水道局「平成27年(2015年)度一般家庭水使用目的別実態調査」をもとに国土交通省水資源部作成)

